

ART bee HIVE

アート ビー ハイヴ

(公財)大田区文化振興協会が2019年秋に創刊した、地域の文化・芸術情報を盛り込んだ季刊情報紙。「BEE HIVE」とは、ハチの巣の意味。公募で集まった区民記者「みつばち隊」と一緒に、アートな情報を集めて皆さまへお届けします!

紙面で紹介しきれなかった情報をWEB版「+bee!」で掲載しています。



公式PRキャラクターズビー

宝探しのような散策が 楽しめるエリア

新 井 宿



①大田文化の森 ②カフェ「昔日の客」 ③和の杜スタジオめでたい ④大田区立龍子記念館 ⑤アジア雑貨ブランサヤ ⑥馬込文士村資料展示室

住宅街に突然おしゃれなアートスポットが現れる

かつて新井宿と呼ばれたこの地域は、大森駅近くの閘坂の南側、池上通りの両側に広がる住宅地です。江戸時代は「平間街道(現池上通り)」沿いの地域として栄え、景勝地として知られていました。明治に入り大森駅開設に伴い、海を見渡す別荘地や多くの文士・画家が住む街へと発展。現在も大田区の文化・芸術の中心の一つです。

「大田文化の森」は大田区役所跡地に2001年11月3日(文化の日)に開設された大田区の文化活動の拠点です。区民による自主的な文化活動が盛んに行われているほか、コンサートやイベントなどの会場としても活用されています。

尾崎士郎や村岡花子など、多くの文士と交流のあった古本屋・山王書房。その店主が残した随筆集『昔日の客』を店名にオープンしたカフェが「昔日の客」です。往時の写真なども飾られ、貴重な本も見ることができます。

和太鼓、三味線などの和楽器のお稽古どころ「和の杜

スタジオめでたい」。和楽器グループ・太鼓笑人めでたいのメンバーが直接指導してくれます。

「大田区立龍子記念館」では、大正・昭和期の日本画壇の巨匠・川端龍子の作品を140点あまり所蔵。作者自身が設計した空間で、大画面の作品群を観ることができます。記念館向かいの龍子公園には旧宅とアトリエが保存され一般公開されています。

「アジア雑貨ブランサヤ」は見ているだけでも楽しいアジアの民芸品や雑貨のショップ&カフェ。庭には季節ごとに様々な花が咲き、バリ島の石像が飾られています。

馬込文士村ゆかりの文士・画家たちが住んでいた場所や歴史を知ることができる「馬込文士村資料展示室」。直筆原稿や書簡(複製)などの資料が展示されています。

住宅街に突然おしゃれなアートスポットが現れる新井宿。宝探しのような散策が楽しめるエリアです。

大田文化の森

📍大田区中央2-10-1 ☎03-3772-0700
🌐ota-bunka.or.jp/bunka/

カフェ「昔日の客」

📍大田区中央1-16-11
☎cafe_sekijitsu sekijitsu.no.kyaku

和の杜スタジオめでたい

📍大田区中央3-4-1 ☎03-6429-7478
🌐wanomori.otomokikaku.com/

大田区立龍子記念館

📍大田区中央4-2-1 ☎03-3772-0680
🌐ota-bunka.or.jp/ryushi/

アジア雑貨ブランサヤ

📍大田区中央4-24-6 ☎03-3777-6340

馬込文士村資料展示室

📍大田区山王3-37-11 (大田区立山王会館内)
☎03-3773-9216
🌐city.ota.tokyo.jp/shisetsu/hakubutsukan/bunshimurashiryoutenjishitsu.html

4面に「新井宿アートMAP」を掲載しています。

*川端龍子:日本画家、俳人。1885-1966。当時の日本画壇では、個人が小さな空間で絵を鑑賞する「床の間芸術」と呼ばれるものが主流であった。従来の日本画の枠にとらわれず、大画面で力強い作品を制作し、「会場芸術」という概念を提唱した。1929年に「青龍社」を結成する。

高頭信子 日本画家

高頭信子 Takatou Nobuko

1929年生まれ。女子美在学中から川端龍子に師事。元青龍社社員。元東京学芸大学非常勤講師、聖徳短期大学非常勤講師。現在、東方美術協会会員、大田区美術家協会名誉会長、詩絵留葉の会主宰。2010年作品集『道一筋』刊行。2025年『六十年前の東欧みやげ話』刊行。



作品『夢花火』(1998)の前に立つ高頭信子さん、大田区立馬込アートギャラリーにて

©KAZNIKI

新井宿(現中央1丁目周辺)出身の日本画家・高頭信子さん。戦後すぐの1948(昭和23)年、女子美術専門学校(現女子美術大学)在学中に川端龍子に師事し、1953(昭和28)年の青龍展*初入選以来96歳となる現在も精力的に活動されています。そんな高頭さんにアートとの出会いについて伺うと、「私はいつも思うのですが、こどもがクレヨンを握るようになって落書きを始める、それが芸術・絵画の始まりだと思っています。私の場合は3歳の頃です。大人が『ちゃんとした形の絵を描きなさい』と言って、せっかくのこどものいい才能を折ってしまうのです。もったいないなといつも考えています」。

高頭さんの風景画にはエネルギーのうねりを感じます。「“気”ですね、雲や波だけではなく、何も無いような原っぱでもそこにどういいう“気”が立ち昇るか、それを見つけるのが楽しい」。そんな高頭さんの資質を師匠である川端龍子先生はご存知だったようです。「私が富士山の絵を描くと、当たり前ですが富士山の形を描きます。すると、先生は『富士山の向こうが見えない』とおっしゃる。一言だけなのですが、それで何回持っていても、『富士山の向こうが見えない』。私も19歳ぐらいだったので、『富士山の向こうって何だろう』とずっと考え続けていました。先生が亡くなった頃になって、『あ、それは富士山の心じゃないか』とやっと分かった。40歳を過ぎてからです。先生は私に“形や色ではない、もっと大事なものがある。それを描くことが絵だ”と教えてくださったんです。それはそのものが持っている“気”ですね」。

1966(昭和41)年に、東欧へ短期留学されています。「小さい時からアンデルセンなどの海外童話の世界が大好きでした。ヨーロッパでは形で童話を描いているのではなく、自分が童話の世界に入り込んで描けたのです。こどもの心が絵の中に出てきました。児童画ではない大人の日本画の中に、こどもの心を入れたいと思いついて描いています」。

*青龍展:日本画家・川端龍子が主宰した美術団体「青龍社」(1929年創立)が開催した展覧会。1929年に東京府美術館(現在の東京都美術館)で第1回「青龍展」が開催された。戦時中も毎年開催され、1965年の第37回展まで続いた。龍子の死去に伴い、1966年に青龍社は解散した。

形や色ではない、もっと大事なものがある



『原野花雲』(1989)



『龍雲』(2005)

第60回東方展

2027年2月5日(金)~9日(火)

10:00-18:00(初日は14:00から、最終日は14:00まで)

大田区民ホール・アプリコ 展示室(大田区蒲田5-37-3)

無料

主 東方美術協会 ☎03-3772-0680(大田区立龍子記念館)

共 (公財)大田区文化振興協会 後 大田区

地域連携企画展「高頭信子 画業80年 道一筋」(仮称)

2027年2月11日(木・祝)~3月22日(月・祝)

9:00-16:30(入館は16:00まで)

大田区立龍子記念館(大田区中央4-2-1)

休 月曜(祝日の場合はその翌日)

未定

主 (公財)大田区文化振興協会 ☎03-3772-0680

商店街 × アート vol.25

大田区内の商店街にあるアートスポットやイベントを紹介します。



入り口から奥へと下がっていく居心地のいい店内

自分だけの世界を作ることができる

プラモデル Cafe & Bar「ギャラクシー」(山王)

戦後もまもなくから続くプラモデル店、プラモデル Cafe & Bar「ギャラクシー」。現在は5代目店主が週末に営業しています。「親子3代のお客さんや、大田区以外の遠方から来てくださる方もいらっしゃいます」。

お店の奥にはソフトドリンクやお酒が飲めるカウンターがあります。3年前にリニューアルしました。同じ趣味の仲間と会話がはずみ、ここがきっかけでお友だちになる。コミュニケーションの場です。大人だけではありません。大人とこどもがプラモデルの話題で普通に会話ができ盛り上がっています(笑)。

店内には誰もが使える作業台があり、人気です。「小学生が作っていて、分からないことがあると大人に教えてもらう。『ありがとうございました。また来ます』と言って楽しそうに帰っていく。うれしくな

みつばち隊: 山王すばこさん
商品が並ぶ奥に、飲み物もオーダーできるカウンターとテーブル・作業できるスペースがあり、ながら居心地のよい秘密基地のようです。プラモデルを通じて小学生からかつてのこどもまで、世代を超えて交流できる素敵な場所でした。

みつばち隊: 本門寺の青空さん
ここは大人もこどもも一緒に集まって、プラモデルについて四方山談義を繰り広げるお店です。何だか秘密基地のような雰囲気も漂わせています。かつてのプラモ少年である私も何十年ぶりに作りたくなってしまいました。



店主の大栗さん

りますよね。プラモデルの魅力を知ると、「自由です。色も形も様々な組み合わせで自分だけのもの、自分だけの世界を作ることができるんです。プラモデルを作らない方も大歓迎だそうです。「覗くだけでも、カフェだけのご利用でも大丈夫です。お散歩の際にぜひお立ち寄りください」。

ギャラクシー・サマーフェス 作品募集中!
ご自慢のオリジナル作品を募集しています(8月30日(日)まで)。詳しくはXをご覧ください。

プラモデル Cafe & Bar「ギャラクシー」

大田区山王3-8-9 山王ホームズ1F

JR京浜東北線「大森駅」徒歩11分

金曜:18:00-22:00、土曜:15:00-21:00、日曜:12:00-18:00

休 月・火・水・木曜・祝日 X GalaxyPlamodel

中央スタジオ arts & crafts

2022年にオープンした「中央スタジオ arts & crafts」は、複数のアーティストが共同で運営しています。中心メンバーでアーティストの河合加奈子さんにお話を伺いました。

「私たちは個々に作家活動をしていたのですが、群馬県中之条町で開催された国際現代芸術祭『中之条ビエンナーレ2021』において共同で作品を発表しました。その時の仲間が集まって中央スタジオをスタートさせたのです。」

その作品が実存『1194』です。「作品の内容は、こどもは未来を、大人は過去を振り返りながら、木材や紙粘土を使用して《自分の足》を作ってもらいました。小、中、養護学校の図工の授業や、絵画教室でワークショップを行いながら、一つ一つを集め、最終的には約1,300個の作品が集まり、会場の壁には制作した人たちの写真を掲示しました。大切にしたい部分は、自分の身体を改めて見つめながら《今の自分》が経過していく、してきた時間を想いながら制作すること。《今の自分が在る》。これは決して当たり前のことではないと思っています。」

中央スタジオのコンセプトについて伺うと、「ただ作家が集まっているだけの空間では意味がない。どんな人たちが集まるのが大切です。しっかりした個が集まるから、自然と面白いことが生まれてくるのだと思っています。」

現在、スタジオを拠点に様々な活動を行なっています。「作家のアトリエであり、ワークショップのスタジオにもなります」。小学1年生からを対象とした造形教室が好評です。「あらかじめカリキュラムは設けず、何を作るのかを決めるのはこどもたちで、自分の作りたいものを作るのが基本です。自分で好きなことをするとは、自分で考えるということ。こんな物を作りたい！ 描きたい!! とこども自身が自分で考え《自由》に発想し、それを形にしていくなかで、心が柔軟な時期にたくさん経験して欲しいと思っています。」

最後にメッセージをいただきました。「大田区で実存プロジェクトを実現したいと思っています。全ての小・中学校を回るくらいの規模で行いたい。資料を持ってどこへでも行きますので、興味のある方はご連絡ください」。

中央スタジオ arts & crafts

📍 大田区中央3-5-1 MSビル1F

🚶 JR京浜東北線「大森駅」より東急バス池上方面行 または東急池上線「池上駅」より東急バス大森方面行「入新井第四小学校」下車 徒歩1分

☎ 090-9375-5073 🌐 infoexist02.wixsite.com/chuostudio/ 📷 chu.st351



アーティストのオーラを感じるスタジオ内部



自由かつ黙々と制作する造形教室のこどもたち



実存『1194』の足を手に持つ河合さん 実存『1194』（中之条ビエンナーレ2021）



大田区内にある文化財に
スポットを当て紹介します。



領主・木原氏の供養塔

📍 萬福寺（大田区南馬込 1-49-1）

江戸時代、新井宿村の領主をつとめた木原氏という一族がいました。初代吉次は遠江国木原郷（現・静岡県袋井市）出身の大工です。元は鈴木家の生まれですが、主君の徳川家康から出身地にちなんで「木原」と呼ばれていたため、姓を改めたと伝わります。

木原氏は「木原方」といわれる建築集団の中心で、幕府の大工頭をつとめました。吉次は浜松城の建築や江戸のまちづくりに携わっています。その過程で、技術的な補佐として遠江から親戚の鈴木長次を呼び寄せました。長次は池上本門寺に所在する重要文化財、五重塔の造営を担当した人物です。

天正18年（1590）、吉次は家康の関東入国に伴い江戸へ移り、新井宿の地を拝領します。その際、近く

にあった荒廃した薬師堂に、境内地として土地を寄進しました。薬師堂はのちに、吉次の法名から「桃雲寺」と称されたそうです。

吉次の子孫は早世する者が多く、ひ孫の義久は4歳で3代当主となります。後年、4代義永によって桃雲寺再興の経緯と周辺の景色を記した記念碑、また木原氏歴代を合祀した供養塔が建立されました。明治13年（1880）に桃雲寺は馬込の萬福寺に併合され、現在、再興記念碑は山王3丁目の薬師堂へ、供養塔は萬福寺へ移っています。

文：稲葉実夢（大田区教育委員会 文化財担当）

📍 大田区教育委員会 文化財担当 ☎ 03-3777-1281

新井宿アートMAP

- 1 大田文化の森**
大田区中央2-10-1 JR京浜東北線「大森駅」より東急バス池上方面行「大田文化の森」下車 徒歩1分
- 2 カフェ「昔日の客」**
大田区中央1-16-11 JR京浜東北線「大森駅」より東急バス池上方面行「大田文化の森」下車 徒歩2分
- 3 和の杜スタジオめでたい**
大田区中央3-4-1 JR京浜東北線「大森駅」より東急バス池上方面行「入新井第四小学校」下車 すぐ
- 4 中央スタジオ arts & crafts**
大田区中央3-5-1 MSビル1F
JR京浜東北線「大森駅」より東急バス池上方面行「入新井第四小学校」下車 徒歩1分
- 5 大田区立龍子記念館**
大田区中央4-2-1
JR京浜東北線「大森駅」より東急バス4番「荏原町駅入口」行「白田坂下」下車 徒歩2分
都営地下鉄浅草線「西馬込駅」徒歩15分
- 6 アジアン雑貨プランサヤ**
大田区中央4-24-6
JR京浜東北線「大森駅」より東急バス池上方面行「入新井第四小学校」下車 徒歩3分
- 7 プラモデルCafe & Bar「ギャラクシー」**
大田区山王3-8-9 山王ホームズ1F JR京浜東北線「大森駅」徒歩11分
- 8 馬込文士村資料展示室**
大田区山王3-37-11 (大田区立山王会館内) JR京浜東北線「大森駅」徒歩9分



リズビーReport

リズビーが前号で紹介した人物・場所・イベントなどを訪れます。



アトリエ木里

4月18日(土)~26日(日) 大田区田園調布本町2-10 1F
春の草花に誘われて錬星舎の仕事展へ。花器を中心に、グラスや食器など素敵なガラス作品がずらり! どの花器にどんな花を生けようか真剣に悩むリズビー。日々彩りを加える作品との出会いに心が満たされる時間を過ごしました。

リズビー公式 X ARTbeeHIVE Instagram abh_rhythbee

注目EVENT

東京モノレール × アート

駅構内や車両を日本の芸術 / 文化を体感できる空間へと彩る。
東京モノレールが取り組む「TOKYO ART & CULTURE」をご紹介します。

ホガリー

アーティスト・Hogalee 氏デザインのデザイントレインが運行中!

運行中

東京パノラマライン(東京モノレール)では、インパクトのある漫画描写でダイナミックに描く絵画で定評のあるHogalee氏によるアート展開で彩ったデザイントレインを運行しています。ぜひご乗車ください!

tokyo-panorama-line.jp/collaborations/03/



羽田空港第3ターミナル駅が「MATSURI STATION」として生まれ変わりました!

開催中~当分の間

東京パノラマライン羽田空港第3ターミナル駅に、東日本エリアの祭りを体感できる「没入型トリックアート」、改札前には祭りのイラストやロゴが描かれたアート空間が登場しました。羽田空港で、日本の祭り文化をぜひご体感ください。

tokyo-panorama-line.jp/collaborations/01/



📍 = 場所 / 🚗 = アクセス / 🕒 = 開催時間・営業時間 / 📅 = 休館日・定休日 / 💰 = 料金 / 👤 = 主催 / 🤝 = 共催 / 🙋 = 後援 / 📞 = お問合せ / ☎ = 電話番号 / ✉ = メール / 🏠 = ホームページ

発見! 街角アート

みつばち隊の皆さんが、大田区内の街角で見つけたアートなモノ・バショ・コトを紹介するコーナーです。



街角に石仏

みつばち隊: 馬込RINさん

自宅近くに石仏が安置され、いつも花が供えられている一角があります。よく見ると左の石仏は六本の腕を持ち、足元には見ざる・言わざる・聞かざるの三匹の猿。調べると、江戸時代に盛んになった民間信仰の本尊。地元の石工が彫ったのでしょうか。長い年月を経て風化した姿からは、優しさや芯の強さを感じられ、素朴な美しさが目を惹きます。ここは街並みに埋もれることなく現代と共存する、私にとってのアートスポットです。



北向庚申(東雪谷)



モガとモボの集うダンスパーティー

みつばち隊: 呑川のほとりさん

大森駅前にある天祖神社の石段をのぼると、馬込文士村の様子を描いたレリーフ群が見えてきます。なかでも私が好きなのが、このダンスパーティーを描いたもの。他の作品には宇野千代や尾崎士郎など人物の名前が入っているのに、これは無記名。つまり、誰か特定の作家を個別に描いたものではなく、文士たちが交流していた「モダンな社交空間」の再現なんです。蓄音機があり、男女がペアで踊る姿は当時のハイカラの極みに感じます。



編集後記



みつばち隊: 山王すばごさん

新井宿義民六人衆のお墓がある善慶寺。境内の奥にかなりの急階段があり、登ったところに熊野神社があります。こちらにかつて新井宿城があったとのこと! 境内に佇みながら、きっと海も臨んでいたのだらうなとしばしのタイムスリップも楽しめます。



みつばち隊: 洗足のMissyさん

実はこれまで新井宿の位置がわかっていなかったのですが、今まで買い物のために利用していた大森駅の近くに位置するということに驚きました。新井宿にある数々の歴史的なスポットを散歩がてら、巡ってみようと思います。



みつばち隊: 羽根付きギョウザさん

新井宿はかつて、大森から池上まで一帯の呼称であったということを今回初めて知りました。「宿」という文字を通して普段通る場所を改めて見つめてみると、いにしへの町の姿が少し思い浮かんでくるような気がします。



編集長: MOJOさん

新井宿育ちの日本画家・高頭信子さん。多くの女性が着物姿だった戦前のことも時代、白田坂の上から洋服を着た女性が降りてくるのを見るのが楽しみだったそうです。友だちと「きっと文士村の作家さんよ」とお話ししていたそうです。



みつばち隊: 池上のワンコさん

地元のことで意外と知らないものです。先日、大田区立郷土博物館で、新井宿がかつて大田区の行政の中心だったと知りました。町名は消えても今も周囲の施設や公園に名前が残っており、その歴史にさらに興味が湧きました。



みつばち隊: 本門寺の青空さん

春日神社の例大祭で道の両側に沢山の露店が立ち並び、大勢の家族連れや子どもたちが手に手にりんご飴やイカ焼きを持ってそぞろに歩いています。その姿を見ると手の中に百円玉を握りしめた少年の頃を思い出さずにはいられません。



みつばち隊: 黒湯あつしさん

ART bee HIVE の実地研修で龍子公園へ行きました。庭園を彩るのは、修善寺から運ばれた深緑の庭石や、龍の鱗を表した石畳。川端龍子の作風と対照的にも見える、園内の繊細な意匠の数々に目が離せませんでした。

みつばち隊の仲間が、新たに4名増えました。次号から本格活動します。ご期待ください。



いちょう並木の黒猫さん



西馬込ルウさん



千鳥のあさがおさん



羽田たびとさん

発行: 公益財団法人 大田区文化振興協会

〒144-0052 東京都大田区蒲田 5-37-3 大田区民ホール・アプリコ

☎ 03-3750-1614(月~金 9:00-17:00) ✉ art-bee-hive@ota-bunka.or.jp

🏠 ota-bunka.or.jp/ X ota_bunka Instagram otabunkaart

📺 大田区文化振興協会チャンネル 🗣 大田区文化振興協会 編集・デザイン: MOJOWORK

ART bee HIVEの詳しい情報はこちら



大田区のアートな情報募集中!

情報をお寄せくださった方には抽選で、情報紙 ART bee HIVEの公式PRキャラクターリズビー & 大田区の公式PRキャラクターはねびよんの限定コラボグッズをプレゼント!



この情報紙には印刷インキ工業連合会認定の植物インキを主に使用しています。